

# 平成17年度 宮城の発掘調査パネル展

宮城県教育庁文化財保護課

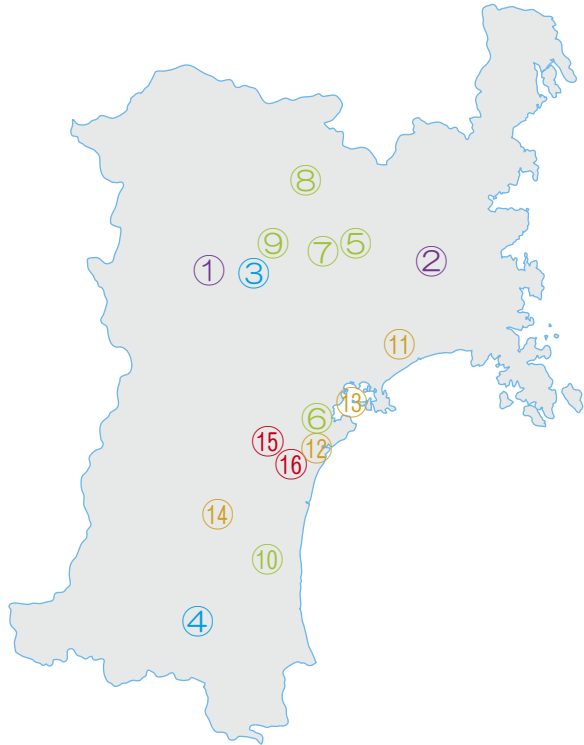
2006年3月27日（月）～4月7日（金） 県庁1階ロビーにて開催

宮城県には、旧石器時代から江戸時代まで6000カ所余の遺跡があります。これらは私たちの祖先が残した貴重な遺産であり、大切に保存し後世に伝えていくことは私たちの責務と考えております。

県教育委員会は、これらの保護と活用に全力をあげて取り組んでおりますが、開発に伴って姿を消す遺跡もあり、それに対してはやむを得ず発掘調査を実施しています。

このたび、本年度に行った発掘調査の中で特に話題になった遺跡をパネルで紹介することにいたしました。この機会に文化財に親しみ、文化財の保護に対してご理解を深めていただければ幸いです。

今回の展示にあたって快くご協力をいただきました各教育委員会・機関に対し、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。



時代	年代	主なできごと	パネルの遺跡
旧石器時代	約500万年前 約3万年前	アフリカで人類が誕生する 後期旧石器時代が始まる	
縄文時代	約1万2千年前 約5000年前	土器・弓矢が出現する 三内丸山遺跡（青森県）で集落が営まれる	①三本松遺跡（加美町） ②山居遺跡（石巻市）
弥生	紀元前400年頃	米作りが始まる	
古墳時代	紀元後300年頃	豪族が盛んに古墳を造る 雷神山古墳（名取市）、遠見塚古墳（仙台市）	③壇の越遺跡（加美町） ④鷹巣古墳群（白石市）
飛鳥	645年	大化の改新	
奈良時代	710年	平城京（奈良市）に都を移す	⑤木戸窯跡群（田尻町）
	724年	多賀城が築かれる	⑥多賀城跡（多賀城市）
	752年	東大寺大仏が完成する	⑦新田柵跡（田尻町）
	780年	伊治公皆麻呂の乱が起こる	⑧伊治城跡（栗原市）
平安時代	794年	平安京（京都市）に都を移す	⑨東山官衙遺跡周辺地区（加美町）
	1167年	平清盛が太政大臣となる	⑩三十三間堂官衙遺跡（巨野町）
鎌倉時代	1192年	源頼朝が鎌倉幕府を開く	⑪矢本横穴墓群（東松島市）
	1274・1281年	文永・弘安の役（元寇）	⑫中野高柳遺跡（仙台市）
室町時代	1338年	足利尊氏が室町幕府を開く	⑬雄島遺跡（松島町）
	1467年	応仁の乱がおこる	⑭上楯城跡（川崎町）
安土・徳川時代	1590年 1600年	豊臣秀吉が天下を統一する 仙台城の築城始まる	
江戸時代	1603年	徳川家康が江戸幕府を開く	⑮仙台城跡（仙台市） ⑯若林城跡（仙台市）
明治	1868年	明治維新	

## 縄文時代

### 縄文時代の見事な炉



複式炉をもつ竪穴住居跡 半分だけ調査している

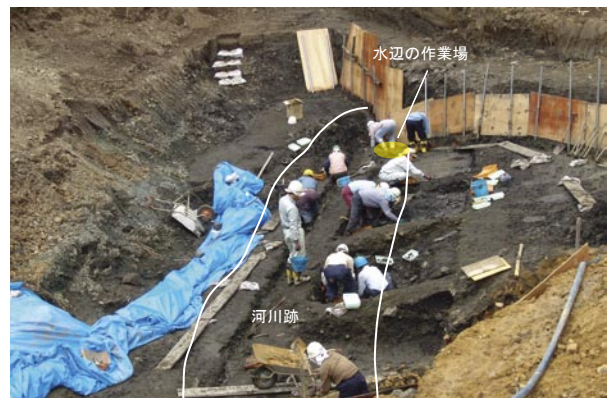
#### ①三本松遺跡（加美町）

縄文時代中期後半（約4500年前）の竪穴住居跡から、大きな河原石と土器を組み合わせた「複式炉」という特徴的な構造の炉が発見されました。こうしたタイプの炉は、東北地方南部を中心に広まりますが、比較的短期間のうちに姿を消してしまいます。遺跡からは土偶なども出土しました。



土偶 左は三角形の頭部のみ 右は頭部が欠けている

### 縄文時代の水辺の作業場



発掘のようす

#### ②山居遺跡（石巻市）

旧桃生町の三陸自動車道予定地内の休耕田の3m下から、縄文時代晩期（約2500年前）の河川跡とその川辺から石や木を配した遺構が発見されました。ここからは竹製のカゴの一部とトチの実が一緒に出土しており、木の実のあく抜きをする作業場と考えられます。縄文時代の人々の生活の一端がうかがえます。



作業場から出土したカゴ断片とトチの実

古墳時代

発掘！古墳時代の竪穴住居跡



竪穴住居跡の発掘の様子



竪穴住居内部の想像図



住居跡から出土した  
杯や甕などの土器

③ 壇の越遺跡 (加美町)

町の東部にある広大な遺跡の一角から、古墳時代中期(5世紀)の竪穴住居跡が発見されました。住居内にはカマドや貯蔵穴が見つられ、多くの土器や石器などの生活用具が残されていました。古墳時代の住居構造や生活を復原する手がかりになると考えられます。

古墳の横穴式石室を発見



28号墳 墳丘は残っておらず、石室の壁の土台と床面のみ確認

④ 県史跡 鷹巣古墳群 (白石市)

市東部の鷹巣丘陵上には、古墳時代中期から後期(5~7世紀)の古墳が40基ほど確認されています。28号墳の調査では横穴式石室が発見されました。石室の壁の土台として大きな石が埋め込まれ、床には小石が敷き詰められていました。また、石室西側の壁沿いには鉄製直刀が副葬されていました。



鉄製直刀の出土状況

奈良~  
平安時代

発掘された古代の瓦窯跡



窯の想像図

窯跡の全景

⑤ 国史跡 木戸窯跡群 (田尻町)

町の北西部にあり、多賀城創建期の瓦や須恵器を生産していた窯跡群です。調査では、窯の天井部が崩落した後に捨てられた、大量の焼け損じた瓦が発見されました。この瓦は不良品ですが、製作工程がよくわかる例が多く、瓦の製作技術や生産体制の一端を知ることができます。



捨てられた不良品の軒丸瓦

※窯のイラストは、潮見浩(1988)『図解技術の考古学』図27を改変

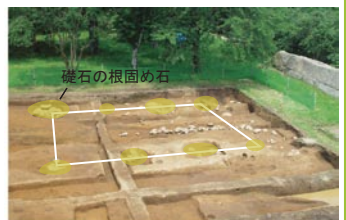
古代陸奥国府の政庁を再検討



西脇殿跡

⑥ 特別史跡 多賀城跡 (多賀城市)

奈良・平安時代の陸奥国府の中核にあたる政庁の調査を、昨年度に引き続き行いました。今年度の西脇殿と東楼の調査でも、規模や構造について新しい事実が確認されたことから、政庁の構成とその変遷を再検討する必要があります。



東楼跡

用語解説

◆横穴式石室：古墳の埋葬施設の一つで、墳丘の側面から入る構造の石室。遺体を埋葬する玄室と、玄室に至る通路(羨道)からなる。

◆多賀城：724年に中央政府によって設置され、古代陸奥国の国府および鎮守府となった。古代東北の政治・軍事の中心であった。

◆城柵：辺境に対する中央政府の支配拡大のために作られた、国府の出先の性格をもつ役所。国府の上級官人である国司が長として派遣された。

◆伊治公皆麻呂の乱：蝦夷の豪族伊治公皆麻呂が、伊治城で政府の役人の峯のらぎを殺害し、さらに多賀城を攻撃し放火した事件。

奈良～  
平安時代

## 新田柵の大型建物跡



外郭南辺付近

### ⑦新田柵跡 (田尻町)

新田柵は奈良時代(8世紀)に中央政府が設置した城柵です。外郭南辺のすぐ内側で、東西に並ぶ2棟の大型建物跡が発見されました。これらは、役所の実務的な仕事を行った建物と考えられます。新田柵の姿が、調査によって徐々に明らかになってきています。



2棟の大型建物跡

## 伊治城外郭の門跡か



外郭南辺付近の建物跡  
人が立っているところが柱穴の位置

### ⑧国史跡伊治城跡 (栗原市)

旧築館町にある伊治城は、奈良時代の神護景雲元年(767)に造られた城柵です。宝龜十一年(780)に起きた伊治公皆麻呂の乱の舞台としても有名です。今回、外郭南辺付近から建物跡が発見されました。これは門跡の可能性がありますが、その性格を探るため、今年も調査をする予定です。



伊治城跡全体図

## 古代の大規模な防御施設



人が立っているところが堀跡  
両側の高まりが土塁跡

### ⑨東山官衙遺跡周辺地区 (加美町)

古代陸奥国賀美郡の役所跡と推定される国史跡東山官衙遺跡周辺の丘陵地で、大規模な土塁と堀跡が発見されました。土塁頂部と堀底面では約5mの高低差があり、土塁の傾斜は人が這い上がるのが困難なほどです。これらは、蝦夷の攻撃から役所を守るために造られたと考えられます。



## 明らかになる古代の巨理郡衙



政庁の北東隅の建物跡

### ⑩国史跡三十三間堂官衙遺跡 (巨理町)

平安時代(9～10世紀)の陸奥国巨理郡の役所跡です。役所の中心である政庁跡の調査で、北東隅の建物は掘立式から礎石式に変遷していることがわかりました。また、東門跡や橋跡(南門の西側)も発見されました。これまでの調査から、政庁全体の様子がほぼ明らかになりました。



政庁跡(合成写真)

## 鎌倉時代 中世、矢本地方の仏教信仰



古代の横穴墓を再利用した中世墓



法華経の經典名が順番に書かれた河原石(礫石経)

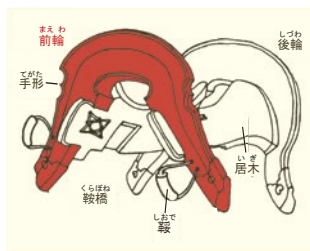
### ⑪市史跡 矢本横穴墓群 (東松島市)

旧矢本町の古代の横穴墓群を調査したところ、鎌倉時代(13世紀)に横穴墓を再利用して作られた墓が3基発見されました。うち1基では、右積み(右積みの塚)に据えられた甕の中に、墨でお経が書かれた石が納められていました。全国的にも貴重な発見例です。矢本地方の人々の仏教への厚い信仰がうかがえます。

## 鎌倉時代の鞍を発見！



くら まえわ  
鞍(前輪)の出土状況



鞍の部位と名称

## ⑫中野高柳遺跡 (仙台市)

なかのたかやなぎ  
仙台港の西に位置する、中世から近世の頃の屋敷跡です。調査では、鎌倉時代の武士の屋敷にともなうゴミ捨て場から、木製で黒漆塗りの「前輪」と呼ばれる馬の鞍の部品が発見されました。鎌倉時代の鞍の例は全国的にも非常に珍しく、馬具の歴史を解明する上で貴重な資料です。

## 発掘された霊場—雄島—



蔵骨器が埋納された墓

蔵骨器が埋納された墓のようす



常滑焼の蔵骨器

口縁～頸部は欠けている

## ⑬雄島遺跡 (松島町)

特別名勝・松島にある雄島は、平安時代から現在まで聖域・霊場として崇拝されてきました。調査では鎌倉～室町時代の蔵骨器が埋納された墓、五輪塔、火葬骨などが発見されました。中世松島の霊場としての具体的な姿を確認できる例は珍しく、雄島の性格とその変遷を知る手がかりになると考えられます。

## 山城の礎石式門跡



門跡 大きな6個の石が礎石(柱の土台石)



上楯城跡全体図

## ⑭上楯城跡 (川崎町)

町東部の支倉地区にある山城で、天文十四年(1545)、支倉紀伊守常正の築城と伝えられています。丘陵最頂部の主郭を中心に配置された大小の曲輪(平場)や土塁・空堀などが、今でも良好に残っています。上楯城公園としての保存・整備に伴う調査によって、主郭へ至る立派な礎石式の門跡が発見されました。

## 解明進む仙台城本丸跡

江戸時代



大広間北東付近のようす 人が立っているところは礎石の位置

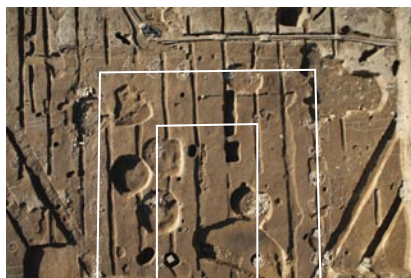


調査区的位置 赤い部分(12次調査区)

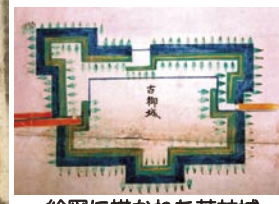
## ⑮国史跡仙台城跡 (仙台市)

仙台城本丸御殿の中心的建物であった大広間の北東付近から、大広間建物の礎石を据えた跡や雨落ち溝、これらよりも古い礎石建物跡などが発見されました。雨落ち溝には縁石部分の掘り直しによる改修跡もみつき、大広間やその周辺では何度か改修や整備が行われていた状況を知ることができました。

## 伊達政宗晩年の居城



上空からみた礎石建物跡 礎の集まりは礎石の根固め石



絵図に描かれた若林城

天明六年(1786)～寛政元年(1789) 仙台市博物館蔵

## ⑯若林城跡 (仙台市)

伊達政宗が寛永五年(1628)に造営し、晩年の約8年間を過ごした城です。現在の若林区古城の宮城刑務所にあたります。調査によって、礎石建物跡や石敷遺構など多くの遺構が発見されました。建物の詳細を描いた史料が残っていないために、これまで謎だった若林城が、はじめてその姿をあらわしました。

### 用語解説

- ◆**礎石経**：河原石に墨でお経を記したもの。一つの石に一字書いた「一字一石経」、多数の文字を書いた「多字一石経」がある。
- ◆**常滑焼**：愛知県常滑市周辺でつくられた焼物。中世では、壺・甕などが、東日本を中心として日本各地に流通した。
- ◆**曲輪**：郭ともいう。土塁・堀などで囲まれ平坦化された城の一区画。近世では「丸」と称し、主郭を本丸と呼ぶ。
- ◆**若林城**：城は政宗の死と共に廃城となり、その建物は二代忠宗が造営した仙台城二の丸などに移築された。後にこの地は「御薬園」となった。

### 協力 (五十音順)

加美町教育委員会 (三本松遺跡・壇の越遺跡) / 栗原市教育委員会 (伊治城跡) / 白石市教育委員会 (鷹巣古墳群) / 仙台市教育委員会 (仙台城跡・若林城跡) / 田尻町教育委員会 (新田柵跡) / 東松島市教育委員会 (矢本横六墓群) / 宮城県多賀城跡調査研究所 (木戸築跡群・多賀城跡) / 巨理町教育委員会 (三十三間堂官衙遺跡)

文化財保護課のホームページアドレスは、<http://www.pref.miyagi.jp/bunkazai/index.htm>